

大学生による北方町まち歩きプロジェクト

～震災時における空き家・高齢者独居の対策と町の活性化～

朝日大学法学部生による自主防犯ボランティア団体「めぐる」

朝日大学防犯ボランティア団体めぐる

法学部生で構成され、2010年に発足。警察庁の指定を受け、大学所在地（瑞穂市）を中心に地域防犯ボランティアに従事。盗犯マップの作成・散歩レンジャー・小学生に対する防犯教室・青色回転灯装備車パトロール・サイバー防犯ボランティアを実施。3.11以降、防犯活動だけでなく、防災活動にも取り組んでいる。

1. 官学連携事業 「北方町まち歩きプロジェクト」の概要

- ① **目的** 危険箇所の点検や防犯パトロールにより家族で暮らすに相応しい安心・安全なまちづくりをすすめる。
- ② **実施時期** 2016年 4月7日～12月8日（毎週木曜日）
- ③ **実施内容** 北方町内をブロック分けし、瓦が落下する恐れのある家屋、道路上の陥没や縁石の破損等の点検活動を行い、異常を発見した場合に写真の撮影や地図への記載をし、北方町役場防災安全課に報告を行う。併せて、防犯パトロールも行い、異常発見時には警察署や役場に通報する。

2. 学生防犯ボランティア団体が実施する意義

- ① **若者が町を歩くこと**
→町に活気をもたらす・広い視野での対応
- ② 地域防犯パトロールの経験と知識がある
→犯罪の予防が可能に
- ③ **講義で学んだ**知識を活かした調査
(法律専門科目、心理学、社会学等)
- ④ 『上級救命講習』、『認知症サポーター講座』を受講済み
→パトロール中の不測の事態に対処可



3. 調査方法・結果報告

北方町役場から提供いただいた地図を活用し、学生6名が3人1組で2チームに分かれ道路の陥没等の修繕箇所、家屋の老朽化について、徒步による調査を行い、その結果を報告書にまとめ、北方町役場に提出。

4. 報告書の作成

- ✓ 修繕箇所 24 項目についてチェック
- ✓ 現場の状況がわかるように写真にて添付し、情報を提供
- ✓ 防犯・防災の視点からの調査報告

5. 活動の成果、気づき

実際に北方町をまち歩きして、138件の修繕箇所、多くの危険家屋を発見することができた。その過程で、空き家が多いという実態を知り、112件の空き家を調査した。さらに、まち歩き中に多数の高齢独居者と出会い、ニーズにあった対応の必要性を感じた。一方、昼間であるにもかかわらず、人通りが少ないため、町の魅力を活かしきれていないことに気づいた。

6. 新たな課題

- ① 震災時における空き家倒壊の危険性
- ② 高齢独居者への対策
- ③ 町に活気がない。



7. 課題解決のための提案

- ① 震災時における空き家対応策
 - 防犯マップを基にした空き家マップの作成
 - 役場を通し許可を取り空き家の清掃
- ② 高齢者独居問題
 - お元気確認
 - 回覧板・交換日記
- ③ 町の活性化
 - 散歩レンジャー
 - 北方魅力マップ



8. まとめ

今回、私たち学生が北方町内のまち歩きをして、多くの修繕箇所、危険家屋の調査を行ったところ、地図に記載されているものと実際見たものとのギャップを感じた。調査を通して、空き家・高齢者独居の対策等、新しい課題も見つかった。

今後も引き続き、北方町役場と連携を図り、また地域住民のみなさんとコミュニケーションを図りながら、「子育てがしやすい」、「高齢者が住みやすい」地域になるように、若者の視点と行動力で、町の活性化に寄与したい。